

佐賀市 小・中学生の生活実態に関する調査
(ヤングケアラー実態調査) 報告書

令和5年1月

佐賀市 子育て支援部 こども家庭課

目 次

I 調査の概要	2
1 調査の背景・目的	2
2 調査対象	2
3 調査方法	2
4 調査時期	2
5 調査内容	2
6 回収状況	3
7 分析方法	3
II 小中学生の生活実態に関するアンケート調査 調査結果	4
1 基本情報	4
2 普段の生活について	8
3 家庭や家族のことについて	13
4 ヤングケアラーについて	24
5 小中学生アンケート調査 追加分析	26
(1) 家族の世話の有無による学校生活等の状況	26
(2) 世話をすることに感じているきつさと世話の状況	31
(3) ヤングケアラーの自己認識による生活状況、世話の状況の違い	37
6 アンケート調査自由意見	45
7 調査結果のまとめと考察	48
(1) 調査結果のまとめ	48
(2) 考察	49

I 調査の概要

1 調査の背景・目的

家族やきょうだいの世話を日常的に担う 18 歳未満の子ども「ヤングケアラー」について国が実施した実態調査では、世話をしている家族が「いる」と回答したのは、小学 6 年生 6.5%、中学 2 年生 5.7%、全日制高校 2 年生 4.1% であることなどの実態が明らかとなった。

ヤングケアラーは、年齢や成長の度合いに見合わない重い責任や負担があるため本人の育ちや教育に影響がみられ、子どもの権利が守られていない可能性がある。さらに、家庭内のデリケートな問題であることや、本人や家族に自覚がないため支援の必要性が表面化しにくい構造となっている。

本調査は、佐賀市におけるヤングケアラーと思われる子どもの実態を把握するため、小中学生に対して実態調査を実施し、支援策を検討するための資料とすることを目的とする。

2 調査対象

市立小学校 6 年生

市立中学校 1・2・3 年生

3 調査方法

GIGA スクールで活用している 1 人 1 台端末を使用し Forms のアンケート機能で回答各学校の学活等の時間を活用し調査を実施

4 調査時期

令和 4 年 6 月～9 月

5 調査内容

- (1) 基本情報
- (2) 普段の生活について
- (3) 家庭や家族の事について
- (4) ヤングケアラーについて

※小学 6 年生向けの調査項目は、平坦な表現での書き換えでおこなった。

6 回収状況

図表－1 回収状況

区分	調査対象数	回答数	回答率
小学6年生	2, 114人	1, 771人	83.7%
中学1・2・3年生	5, 471人	4, 504人	82.3%

7 分析方法

調査票各設問の単純集計及びクロス集計にて分析をおこなった。

Ⅱ 小中学生の生活実態に関するアンケート調査 調査結果

1 基本情報

① 性別

回答者の性別は、以下のとおり。

図表-2 性別

(上段：人、下段：%)

	調査数 (n)	男性	女性	その他
小学生	1,771	907	860	4
	%	51.2	48.6	0.2
中学生	4,504	2,204	2,274	26
	%	48.9	50.5	0.6

② 学年（中学生のみ）

回答者の学年は以下のとおり。

図表-3 学年（中学生のみ）

(上段：人、下段：%)

	調査数 (n)	中学 1 年	中学 2 年	中学 3 年
中学生	4,504	1,517	1,579	1,408
	%	33.7	35.1	31.3

③ 同居家族

同居家族は、小学生、中学生いずれも「母親」の割合が最も高く、次いで「父親」、「兄・姉」「弟・妹」となっている。

図表-4 同居家族（複数回答）

（上段：人、下段：％）

	調査数 (n)	母親	父親	祖母	祖父	兄・姉	弟・妹	その他
小学生	1,771	1,729	1,492	354	257	932	897	119
	％	97.6	84.2	20.0	14.5	52.6	50.6	6.7
中学生	4,504	4,365	3,732	935	589	2,325	2,373	315
	％	96.9	82.9	20.8	13.1	51.6	52.7	7.0

④ 家族構成

回答者の家族構成は以下のとおり。

図表-5 家族構成

（上段：人、下段：％）

	調査数 (n)	二世代世帯 (ふたり親家庭)	三世代世帯	ひとり親家庭	その他世帯
小学生	1,771	1,189	369	192	21
	％	67.1	20.8	10.8	1.2
中学生	4,504	2,908	982	570	44
	％	64.6	21.8	12.7	0.9

⑤ 兄姉の人数

回答者の兄・姉の人数は以下のとおり。

図表-6 兄姉の人数

(上段:人、下段:%)

	調査数 (n)	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人
小学生	1,771	763	674	243	50	17	3	2	2	0	1	1
	%	43.1	38.1	13.7	2.8	1.0	0.2	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1
中学生	4,504	1,905	1,653	729	149	47	8	4	4	2	0	3
	%	42.3	36.7	16.2	3.3	1.0	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1

⑥ 弟妹の人数

回答者の兄・姉の人数は以下のとおり。

図表-7 弟妹の人数

(上段:人、下段:%)

	調査数 (n)	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人
小学生	1,771	815	631	236	49	10	3	0	0	0	1	1
	%	46.0	35.6	13.3	2.8	0.6	0.2	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
中学生	4,504	2,073	1,546	709	139	23	7	3	0	0	0	0
	%	46.0	34.3	15.7	3.1	0.5	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0

⑦ 健康状態

健康状態は、小学生、中学生いずれも「よい」が5割を超え最も多く、次いで「まあよい」、「ふつう」となっている。「あまりよくない」「よくない」も少数だがみられる。

図表-8 健康状態

(上段：人、下段：%)

	調査数 (n)	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない
小学生	1,771	1,046	319	351	52	3
	%	59.1	18.0	19.8	2.9	0.2
中学生	4,504	2,502	921	889	176	16
	%	55.6	20.4	19.7	3.9	0.4

2 普段の生活について

① 学校への通学状況：出欠状況

学校の出欠状況は、小学生、中学生いずれも「ほとんど欠席しない」が8割を超え最も高くなっている。「よく欠席する」は小学生の3.6%、中学生の4.6%にみられる。

図表－9 出欠状況
(上段：人、下段：%)

	調査数 (n)	ほとんど欠席しない	たまに欠席する	よく欠席する
小学生	1,771	1,493	214	64
	%	84.3	12.1	3.6
中学生	4,504	3,654	644	206
	%	81.1	14.3	4.6

② 学校への通学状況：遅刻や早退の状況

学校が遅刻や早退の状況は、小学生、中学生いずれも「ほとんどしない」が8割以上と最も高くなっている。「よくする」は小学生、中学生とも5.8%にみられる。

図表－10 遅刻や早退の状況
(上段：人、下段：%)

	調査数 (n)	ほとんどしない	たまにする	よくする
小学生	1,771	1,455	214	102
	%	82.2	12.1	5.8
中学生	4,504	3,691	552	261
	%	81.9	12.3	5.8

③ 部活動（社会体育）や習い事などへの参加状況（学校外での活動を含む）

部活動（社会体育）や習いごとへの参加状況は、小学生、中学生いずれも「参加している」が8割を超えている。

図表－11 部活動（社会体育）や習い事などへの参加状況

（上段：人、下段：％）

	調査数 (n)	参加している	参加していない
小学生	1,771	1,451	320
	％	81.9	18.1
中学生	4,504	3,785	719
	％	84.0	16.0

④ 普段の学校生活などであてはまること

普段の学校生活であてはまるものが、「特にない」が6割前後と最も高くなっているものの、次いで、小学生では「忘れ物が多い」「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」が他に比べ高くなっている。中学生では「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」「忘れ物が多い」「宿題や課題ができていないことが多い」「授業中に居眠りをする人が多い」が他に比べ高くなっている。

図表－12（複数回答）

（上段：人、下段：％）

	調査数（n）	授業中に居眠りすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	忘れ物が多い	部活動や習いごとを休むことが多い	提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごす事が多い	学校では一人で過ごす事が多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない
小学生	1,771	121	204	364	30	241	8	20	84	71	1,181
	%	6.8	11.5	20.6	1.7	13.6	0.5	1.1	4.7	4.0	66.7
中学生	4,504	791	836	854	165	902	30	47	199	172	2,681
	%	17.6	18.6	19.0	3.7	20.0	0.7	1.0	4.4	3.8	59.5

⑤ 現在の悩みや困りごと

現在の悩みや困りごとについては、「特にない」が小学生では7割、中学生では5割を超え、いずれも最も高くなっている。次いで、小学生では「友達のこと」、中学生では「学業成績のこと」「進路のこと」が他に比べ高くなっている。

図表-13 現在の悩みや困りごと（複数回答）

（上段：人、下段：％）

	調査数（n）	友人との関係のこと	学業成績のこと	進路のこと	部活動のこと（社会体育や習い事のこと）	学費や学校生活に必要なお金のこと	塾（通信含む）や習い事ができないこと	家庭の経済的状況のこと
小学生	1,771 ％	210 11.9	171 9.7		101 5.7	50 2.8		
中学生	4,504 ％	494 11.0	1,370 30.4	1,311 29.1	458 10.2	81 1.8	75 1.7	85 1.9

	自分と家族との関係のこと	仲が良くない等 家族内の人間関係のこと（両親の	病気や障がいのある家族のこと	自分のために使える時間が少ないこと	その他	特にない
小学生				66 3.7	111 6.3	1,310 74.0
中学生	186 4.1	119 2.6	48 1.1	139 3.1	114 2.5	2341 52.0

⑥ 悩みや困りごとについて話を聞いてくれる人の有無

悩みや困りごとの話を聞いてくれる人の有無については、「いる」が7割前後と最も高くなっている一方で、「話したくない」という回答がいずれも約2割前後となっている。

図表-14 悩みや困りごとの話を聞いてくれる人の有無

(上段：人、下段：%)

	調査数 (n)	相談相手や話を聞いてくれる人がいる	相談相手や話を聞いてくれる人がいない	相談や話したくない
小学生	1,771 %	1,257 71.0	157 8.9	357 20.2
中学生	4,504 %	2,878 63.9	106 2.4	801 17.8

3 家庭や家族のことについて

① 世話をしている家族の有無

世話をしている家族の有無については、「いる」と回答した小学生が16.9%、中学生が4.6%となっている。

図表-15 世話をしている家族の有無

(上段：人、下段：%)

	調査数 (n)	いる	いない
小学生	1,606 %	272 16.9	1,334 83.1
中学生	4,241 %	195 4.6	4,046 95.4

※本設問で世話をしている家族が「いる」と回答した者のうち、世話をしている家族で「その他」を選択し、具体的記載欄に明らかにペットや動物等を記載した者については対象外とした。

② 世話を必要としている家族

世話を必要としている家族については、小学生では「母親」、中学生では「弟・妹」が最も高くなっている。

図表-16 世話を必要としている家族（複数回答）

(上段：人、下段：%)

	調査数 (n)	母親	父親	祖母	祖父	兄・姉	弟・妹	親戚の人	その他
小学生	272 %	131 48.2	96 35.3	49 18.0	28 10.3	38 14.0	126 46.3	13 4.8	26 9.6
中学生	195 %	43 22.1	27 13.8	25 12.8	14 7.2	17 8.7	130 66.7	0 0	0 0

③ 世話をしている人の状況（中学生のみ回答）

世話をしている人の状況を聞いたところ、最も多かったのは「若い」で、次いで「高齢」であった。

図表－17 世話をしている人の状況（中学生のみ）（複数回答）

（上段：人、下段：％）

	調査数 (n)	高齢	若い	要介護	認知症	身体障がい	知的障がい	精神心疾患 (疑い含む)	ギャンブル依存症、 依存症(アルコール依存症、)	上記以外の病気	その他
中学生	195	28	125	3	2	0	13	7	4	5	23
	％	14.4	64.1	1.5	1.0	0	6.7	3.6	2.1	2.6	11.8

④ 世話の内容

世話の内容として、小学生では「家事」が最も多く、次いで「見守り」となっている。中学生では「見守り」が最も多く、次いで「きょうだいの世話や保育園などへの送迎」となっている。

図表-18 世話の内容（複数回答）

（上段：人、下段：％）

	調査数（n）	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの世話や保育園などへの送迎	身体的な介護（入浴やトイレの世話など）	外出の付添い（買い物や散歩など）	通院の付添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になる等）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	その他
小学生	272	130	67	91	0	0	85	118	7	28	28	41
	％	47.8	24.6	33.5	0	0	31.3	43.4	2.6	10.3	10.3	15.1
中学生	195	65	72	21	41	3	15	120	1	3	10	16
	％	33.3	36.9	10.8	21.0	1.5	7.7	61.5	0.5	1.5	5.1	8.2

⑤ 世話を一緒にしている人

世話を一緒にしている人については、小学生、中学生いずれも「母親」が最も多くなっている。一方で「自分のみ」とした者も1～2割程度みられる。

図表－19 世話を一緒にしている人（複数回答）

（上段：人、下段：％）

	調査数 (n)	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービス（ヘルパーなど）利用	その他
小学生	272	180	120	46	18	116	7	53	3	9
	%	66.2	44.1	16.9	6.6	42.6	2.6	19.5	1.1	3.3
中学生	195	140	92	26	13	94	4	29	5	6
	%	71.8	47.2	13.3	6.7	48.2	2.1	14.9	2.6	3.1

⑥ 世話を始めた年齢

世話を始めた年齢は、小学生、中学生いずれも9～10歳（小学校中学年）からが最も高くなっている。

図表－20 世話を始めた年齢

（上段：人、下段：％）

	調査数 (n)	6歳 (小学校入学前)	7～8歳 (小学校低学年)	9～10歳 (小学校中学年)	11歳～12歳 (小学校高学年)	13歳から15歳 (中学生)
小学生	272	65	60	97	50	
	%	23.9	22.1	35.7	18.4	
中学生	195	44	26	49	46	30
	%	22.6	13.3	25.1	23.6	15.4

⑦ 世話をしている頻度

世話をしている頻度については小学生、中学生いずれも「ほぼ毎日」が5割前後で最も高くなっている。

図表-21 世話をしている頻度

(上段：人、下段：%)

	調査数 (n)	ほぼ 毎日	週 に 3 ～ 5 日	週 に 1 ～ 2 日	1 か 月 に 数 日	そ の 他
小学生	272	131	65	42	26	8
	%	48.2	23.9	15.4	9.6	2.9
中学生	195	108	36	31	13	7
	%	55.4	18.5	15.9	6.7	3.6

⑧ 平日1日あたりに世話に費やす時間

平日1日あたりに世話に費やす時間については、小学生は「30分未満」、中学生は「30分から1時間未満」が最も高くなっている。一方で、「7時間以上」が小学生、中学生いずれも1割程度みられる。

図表-22 平日1日あたりに世話に費やす時間

(上段：人、下段：%)

	調査数 (n)	30 分 未 満	30 分 ～ 1 時 間 未 満	1 時 間 ～ 2 時 間 未 満	2 時 間 ～ 3 時 間 未 満	3 時 間 ～ 5 時 間 未 満	5 時 間 ～ 7 時 間 未 満	7 時 間 以 上
小学生	272	95	76	40	18	16	4	23
	%	34.9	27.9	14.7	6.6	5.9	1.5	8.5
中学生	195	39	49	32	28	25	4	18
	%	20.0	25.1	16.4	14.4	12.8	2.1	9.2

⑨ 世話をしているために、やりたいけれどできていないこと（生活への影響）

世話をしているために、やりたいけれどできていないことについては、小学生、中学生いずれも「特にない」が7割前後で最も高くなっているものの、「自分の時間が取れない」「睡眠が十分にとれない」等のほか、「どうしても学校を遅刻・早退してしまう」や小学生では「学校に行きたくても行けない」という深刻な回答がみられる。

図表-23 世話をしているために、やりたいけれどできていないこと（複数回答）

（上段：人、下段：％）

	調査数 (n)	学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	睡眠が十分にとれない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、もしくは辞めなければならなかった
小学生	272	2	7	25	25	26	1
	％	0.7	2.6	9.2	9.2	9.6	0.4
中学生	195	0	5	23	24	22	1
	％	0	2.6	11.8	12.3	11.3	0.5

	進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	自分の時間が取れない	その他	特にない
小学生	33 12.1	10 3.7	201 73.9	
中学生	3 1.5	37 19.0	3 1.5	136 69.7

⑩ 世話のきつき

世話をすることに感じているきつきについては、小学生、中学生いずれも「特にきつきは感じていない」が7～8割と最も高くなっている。一方で、「身体的にきつい」「精神的にきつい」「時間的余裕がない」と感じている子どもも1～2割程度みられる。

図表－24 世話をすることに感じているきつき（複数回答）

（上段：人、下段：％）

	調査数 (n)	身体的 にきつい	精神的 にきつい	時間的 余裕がない	特に きつきを感じて いない
小学生	272 %	26 9.6	18 6.6	26 9.6	222 81.6
中学生	195 %	15 7.7	27 13.8	38 19.5	142 72.8

⑪ 世話について相談の有無

世話について相談したことは、「ある」が小学生では約3割、中学生で約2割、「ない」が小学生では約7割、中学生で8割となっている。

図表－25 世話について相談の有無

（上段：人、下段：％）

	調査数 (n)	ある	ない
小学生	180 %	53 29.4	127 70.6
中学生	125 %	24 19.2	101 80.8

※未回答があるため、調査数≠世話をしている家族「あり」

⑫ 世話についての相談相手

世話についての相談相手は、小学生、中学生いずれも「家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）」が最も高く、次いで「友人」となっている。中学生では、「学校の先生」「保健室の先生」「スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー」と学校関係者が高くなっている。

図表-26 世話についての相談相手（複数回答）

（上段：人、下段：％）

	調査数（n）	家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）	親戚（おじ、おばなど）	友人	学校の先生（保健室の先生以外）	保健室の先生	スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー
小学生	53	40	0	16	4	0	0
	%	75.5	0	30.2	7.5	0	0
中学生	24	17	3	8	4	4	3
	%	70.8	12.5	33.3	16.7	16.7	12.5

	医師や看護師、その他病院の人	福祉サービスの人 ヘルパーやケアマネージャー、	役所や保健センターの人	近所の人	SNS上での知り合い	その他
小学生	0	0	0	0	1	0
	0	0	0	0	1.9	0
中学生	0	0	0	0	3	1
	0	0	0	0	12.5	4.2

⑬ 世話について相談したことがない理由

世話について相談したことが「ない」と回答した人に、その理由について聞いたところ、小学生、中学生いずれも「誰かに相談するほどの悩みではない」が8割前後と最も高く、次いで「相談しても状況が変わることはない」が高くなっている。一方で、「誰に相談するのがよいかわからない」や「相談できる人が身近にいない」など、相談したいのに相談できていないと考えられる子どもも一定数みられる。

図表-27 世話について相談したことがない理由（複数回答）

（上段：人、下段：%）

	調査数 (n)	誰かに相談するほどの 悩みではない	家族以外の人に相談する ような悩みではない	誰に相談するのがよい かわからない	相談できる人が身近に いない	家族のこのため話し たくない	家族のことを知られた くない	家族に対して偏見を持 たれたくない	相談しても状況が変 わることはない	その他
小学生	127	97	0	12	4	10	0	0	16	13
	%	76.4	0	9.4	3.1	7.9	0	0	12.6	10.2
中学生	101	86	11	7	4	10	5	7	13	6
	%	85.1	10.9	6.9	4.0	9.9	5.0	6.9	12.9	5.9

⑭ 世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について相談したことが「ない」と回答した人に、世話について話を聞いてくれる人の有無を聞いたところ、小学生、中学生いずれも7割が「いる」と回答している。一方で、3割が「いない」と回答している。

図表-28 世話について話を聞いてくれる人の有無

（上段：人、下段：%）

	調査数 (n)	いる	いない
小学生	127	90	37
	%	70.9	29.1
中学生	101	71	30
	%	70.3	29.7

⑮ 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援については、小学生、中学生いずれも「特にな
い」が約7割と最も高くなっている。一方で、小・中学生ともに「自由に使える時間がほし
い」「自分の今の状況について話を聞いてほしい」「学校の勉強や受験勉強など学習のサポ
ートをしてほしい」や中学生では「進路や就職など将来の相談に乗ってほしい」の回答がやや
多くみられる。

図表-29 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援（複数回答）

（上段：人、下段：％）

	調査数（n）	自分の今の状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談に乗ってほしい	よく説明してほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	ービスが欲しい	自分が行なっているお世話を全てを代わってくれる人やサービスが欲しい	自分が行なっているお世話の一部を代わってくれる人やサービスが欲しい	自由に使える時間が欲しい	進路や就職など将来の相談に乗ってほしい
小学生	127 ％	4 3.1	1 0.8	2 1.6	0 0	3 2.4	7 5.5			
中学生	101 ％	4 4.0	2 2.0	1 1.0	1 1.0	0 0	9 8.9	4 4.0		

	学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい	家庭への経済的な支援をしてほしい	わからない	その他	特にな い
小学生	4 3.1	2 1.6	10 7.9	2 1.6	91 71.7
中学生	6 5.9	2 2.0	14 13.9	0 0	71 70.3

※未回答があるため調査数≠世話をしている家族「あり」

⑩ 「自分が行なっているお世話の全てを代わってくれる人やサービスが欲しい」または「自分が行なっているお世話の一部を代わってくれる人やサービスが欲しい」と回答した人がどんな時に、どんなお世話を希望しているか。 (中学生のみ回答)

回答なし

4 ヤングケアラーについて

① ヤングケアラーの自己認識

自分がヤングケアラーにあてはまると思うかについて聞いたところ、小学生では「あてはまる」が4.4%、中学生が2.6%となっている。

家族の中に世話をしている人がいると回答した人のうち約1割が「自分はヤングケアラーにあてはまる」と回答している。一方で、「わからない」と回答している人が約5割みられる。

図表-30 ヤングケアラーの自己認識

(上段：人、下段：%)

	調査数 (n)	あてはまる	あてはまらない	わからない
小学生	1,771	78	1,093	600
	%	4.4	61.7	33.9
中学生	4,504	118	3,168	1,218
	%	2.6	70.3	27.0

図表-31 家族の世話の有無別によるヤングケアラーの自己認識

(%)

			調査数 (n)	あてはまる	あてはまらない	わからない
世話をしている家族	小学生	いる	272	11.0	33.5	55.5
		いない	1,334	2.9	68.9	28.2
	中学生	いる	195	10.8	35.9	53.3
		いない	4,046	2.1	73.6	24.3

② ヤングケアラーの認知度

ヤングケアラーの認知度については、小学生、中学生いずれも「聞いたことはない」が約5割を占め、「聞いたことがあり、内容も知っている」は、いずれも2割前後となっている。

図表-32 ヤングケアラーの認知度

(上段：人、下段：%)

	調査数 (n)	内容も知っている	聞いたことがあり、 が、よく知らない	聞いたことがある	聞いたことはない
小学生	1,771	297	596	878	
	%	16.8	33.7	49.6	
中学生	4,504	948	1,161	2,395	
	%	21.0	25.8	53.2	

③ ヤングケアラーについて知ったきっかけ

ヤングケアラーについて「聞いたことがあり、内容も知っている」「聞いたことがあるが、よく知らない」と回答した人に、知ったきっかけを聞いたところ、小学生、中学生いずれも「テレビや新聞、ラジオ」が最も高く、次いで「学校」となっている。

図表-33 ヤングケアラーについて知ったきっかけ (複数回答)

(上段：人、下段：%)

	調査数 (n)	テレビや新聞、 ラジオ	雑誌や本	SNSやインターネット	広報やチラシ、 掲示板	イベントや交流会など	学校	友人・知人から聞いた	その他
小学生	893	438	81	135	97	5	319	30	103
	%	49.0	9.1	15.1	10.9	0.6	35.7	3.4	11.5
中学生	2,109	1,102	220	495	196	25	728	133	121
	%	52.3	10.4	23.5	9.3	1.2	34.5	6.3	5.7

5. 小中学生アンケート調査 追加分析

(1) 家族の世話の有無による学校生活等の状況

① 家族の世話の有無×健康状態

世話をしている家族がいる人は、小学生、中学生いずれもいない人に比べて健康状態が「あまりよくない」、「よくない」の割合が高くなっている。

図表-34 家族の世話の有無×健康状態

(%)

			調査数 (n)	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない
世話をしている家族	小学生	いる	272	51.8	18.4	25.0	4.4	0.4
		いない	1,334	60.5	18.1	18.5	2.8	0.1
	中学生	いる	195	48.2	16.9	22.1	12.3	0.5
		いない	4,046	56.0	20.5	19.7	3.5	0.3

② 家族の世話の有無×出席状況

世話をしている家族がいる人は、小学生、中学生いずれもいない人に比べて「たまに欠席する」、「よく欠席する」の割合が高くなっている。

図表-35 家族の世話の有無×出席状況

(%)

			調査数 (n)	ない	ほとんど欠席し	たまに欠席する	よく欠席する
世話をしている家族	小学生	いる	272	80.5	15.4	4.0	
		いない	1,334	85.2	11.5	3.3	
	中学生	いる	195	70.8	24.6	4.6	
		いない	4,046	81.9	13.6	4.5	

③ 家族の世話の有無×遅刻や早退の状況

世話をしている家族がいる人は、小学生、中学生いずれもいない人に比べて遅刻や早退を「たまにする」、「よくする」の割合が高くなっている。

図表－36 家族の世話の有無×遅刻や早退の状況

(%)

			調査数 (n)	ほとんど しない	たまに する	よく する
世話を している 家族	小学生	いる	272	76.5	17.3	6.3
		いない	1,334	83.6	11.1	5.3
	中学生	いる	195	70.3	18.5	11.3
		いない	4,046	82.8	11.6	5.6

④ 家族の世話の有無×学校生活等であてはまること

世話をしている家族がいる人でも、学校生活への影響について4～5割は「特にない」と回答している。しかし、世話をしている家族がいる人は、いない人に比べて、全体としてあてはまる割合が高い傾向にあり、小学生、中学生いずれも「忘れ物が多い」「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」「宿題や課題ができていないことが多い」「宿題や課題ができていないことが多い」が特に高くなっている。

図表-37 家族の世話の有無×学校生活等であてはまること（複数回答）

(%)

			調査数 (n)	授業中に居眠りすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	忘れ物が多い	部活動(社会体育)や習い事を休むことが多い	提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い
世話をしている家族	小学生	いる	272	9.6	16.5	27.2	3.7	19.1
		いない	1,334	5.8	10.0	19.2	1.2	12.4
	中学生	いる	195	23.1	34.4	31.3	8.2	30.8
		いない	4,046	17.0	17.5	18.2	3.4	19.2

			修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では一人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない
世話をしている家族	小学生	いる	0.7	1.8	2.6	6.6	55.9
		いない	0.4	1.0	5.0	3.5	69.5
	中学生	いる	0.5	3.1	6.2	5.6	41.5
		いない	0.6	0.9	4.2	3.6	60.8

⑤ 家族の世話の有無×現在の悩みや困りごと

世話をしている家族がいる人でも、悩みや困りごとについて小学生では6割、中学生では4割は「特にない」と回答している。しかし、世話をしている家族がいる人は、いない人に比べ、全体としてあてはまる割合が高い傾向にあり、小学生では、特に「学業成績のこと」「自分のために使える時間が少ないこと」が高く、中学生では「自分と家族との関係のこと」「病気や障がいのある家族のこと」「友人との関係のこと」が高くなっている。

図表-38 家族の世話の有無×現在の悩みや困りごと（複数回答）

			(%)						
			調査数 (n)	友人との 関係のこと	学業成績 のこと	進路の こと	部活動の こと(社会 体育や習 い事のこと)	学費や学 校生活に 必要な お金のこと	塾(通信 含む)や 習い事 がでない こと
世話を してい る家族	小学生	いる	272	15.4	13.2		8.1	5.5	
		いない	1,334	11.5	8.6		5.1	2.0	
	中学生	いる	195	17.4	36.4	35.4	14.9	5.1	6.2
		いない	4,046	10.5	29.9	28.8	9.8	1.7	1.4

			家庭の 経済的 状況の こと	自分と 家族と の 関係の こと	家族内 の人間 関係の こと(両 親の仲 が良く ない等)	と 病 気 や 障 が い の あ る 家 族 の こ と	自 分 の た め に 使 え る 時 間 が 少 な い こ と	そ の 他	特 に な い
世話を してい る家族	小学生	いる					8.1	8.8	65.1
		いない					3.0	6.0	75.6
	中学生	いる	3.6	11.8	5.6	8.7	9.2	3.6	40.0
		いない	1.8	3.8	2.5	0.7	2.6	2.4	52.7

⑥ 家族の世話の有無×相談相手の有無

世話をしている家族がいる人で、悩みや困りごとの相談相手がいると回答した人は、小学生、中学生いずれも約6割で、世話をしている家族がいない人に比べ低くなっている。また、世話をしている家族がいると回答する人は「相談相手や話を聞いてくれる人がいない」「相談や話はしたくない」の割合がいない人に比べ、やや高くなっている。

図表－39 家族の世話の有無×相談相手の有無

(%)

			調査数 (n)	人がいる 相談相手や話を聞いてくれる	人がいない 相談相手や話を聞いてくれる	相談や話はしたくない	未回答
世話をしている家族	小学生	いる	272	67.3	10.7	22.1	0
		いない	1,334	72.3	8.3	19.4	0
	中学生	いる	195	59.5	3.1	27.2	10.3
		いない	4,046	64.1	2.3	17.4	16.3

(2) 世話をすることに感じているきつさと世話の状況

① 世話をすることに感じているきつさ×世話について相談の有無

小学生では「精神的にきつい」と回答した人は、「身体的にきつい」や「時間的余裕がない」と回答した人に比べ、世話について相談したことが「ない」と回答する割合が7割を超え高くなっている。

中学生では、世話をすることに身体的、精神的なきつさや時間的余裕がないと感じていても、世話について相談したことが「ない」と回答する割合が全ての項目で7割を超えている。

図表-40 世話をすることに感じているきつさ×世話について相談の有無
(%)

		調査数 (n)	相談したことがある	相談したことがない
小学生	身体的にきつい	26	50.0	50.0
	精神的にきつい	17	29.4	70.6
	時間的余裕がない	25	44.0	56.0
	特にきつさを感じていない	215	27.0	73.0
中学生	身体的にきつい	14	21.4	78.6
	精神的にきつい	27	29.6	70.4
	時間的余裕がない	36	25.0	75.0
	特にきつさを感じていない	133	14.3	85.7

② 世話をすることに感じているきつき×世話について相談したことがない理由

世話について相談したことがない理由については、小学生では、「精神的にきつい」と回答した場合「相談しても状況が変わることはない」の割合が他に比べ高くなっている。中学生では、「身体的にきつい」「精神的にきつい」「時間的な余裕がない」と回答したいずれの場合も「誰かに相談するような悩みではない」の割合が他に比べ高くなっている。

図表一41 世話をすることに感じているきつき×世話について相談したことがない理由（複数回答）
(%)

		調査数 (n)	誰かに相談するほどの 悩みではない	家族以外の人に相談する ような悩みではない	誰に相談するのが よいかわからない	近にいない 相談できる人が身
小学生	身体的にきつい	13	38.5		53.8	15.4
	精神的にきつい	12	33.3		25.0	16.7
	時間的余裕がない	14	35.7		42.9	21.4
	特にきつきを感じていない	157	79.6		5.7	1.9
中学生	身体的にきつい	11	63.6	0	18.2	9.1
	精神的にきつい	19	57.9	5.3	10.5	5.3
	時間的余裕がない	27	77.8	11.1	14.8	3.7
	特にきつきを感じていない	114	80.7	8.8	2.6	1.8

		家族の こと のため 話した くない	家族の ことを 知 られた くない	家族に 対して 偏 見を持 たれた くない	家族に 対して 偏 見を持 たれた くない	相談して も状況 が 変わる ことは ない	その他
小学生	身体的にきつい	15.4				53.8	23.1
	精神的にきつい	25.0				66.7	8.3
	時間的余裕がない	21.4				57.1	14.3
	特にきつきを感じていない	5.7				8.3	10.8
中学生	身体的にきつい	9.1	9.1	18.2		54.5	9.1
	精神的にきつい	10.5	10.5	21.1		47.4	10.5
	時間的余裕がない	18.5	3.7	11.1		22.2	3.7
	特にきつきを感じていない	4.4	0.9	1.8		5.3	9.6

③ 世話のきつき×世話の悩みについて聞いてくれる人の有無

世話の悩みについて聞いてくれる人の有無について、「身体的にきつい」と回答した人は「いる」が他に比べ低く、小学生、中学生いずれも5割を下回っている。

図表－42 世話のきつき×世話の悩みについて聞いてくれる人の有無
(%)

		調査数 (n)	いる	いない
小学生	身体的にきつい	11	45.5	54.5
	精神的にきつい	9	66.7	33.3
	時間的余裕がない	12	50.0	50.0
	特にきつきを感じていない	145	26.9	73.1
中学生	身体的にきつい	10	40.0	60.0
	精神的にきつい	17	52.9	47.1
	時間的余裕がない	24	50.0	50.0
	特にきつきを感じていない	94	73.4	26.6

④ 世話のきつき×学校や大人に助けて欲しいことや、必要な支援

学校や大人に助けてほしいことや必要な支援については、小学生では「身体的にきつい」と回答した人は、「学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい」が他に比べ高く、「精神的にきつい」や「時間的余裕がない」と回答した小学生は、「自由に使える時間が欲しい」が他に比べ高くなっている。中学生ではいずれの場合も「自由に使える時間が欲しい」が他に比べ最も高くなっている。

図表-43 世話のきつき×学校や大人に助けて欲しいことや、必要な支援（複数回答）
(%)

		調査数 (n)	自分の今の状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談に乗ってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどにわたってくれる人やサービスが欲しい	自分が行なっているお世話の全てを代わってくれる人やサービスが欲しい	自分が行なっているお世話の一部を代わってくれる人やサービスが欲しい	自由に使える時間が欲しい
小学生	身体的にきつい	26	11.5	3.8	0	0	7.7	11.5	
	精神的にきつい	18	16.7	0	0	0	0	33.3	
	時間的余裕がない	26	0	0	0	0	3.8	42.3	
	特にきつきを感じていない	222	2.7	0.9	1.4	0	0.5	4.5	
中学生	身体的にきつい	22	9.1	4.5	9.1	0	0	18.2	
	精神的にきつい	42	11.9	4.8	4.8	2.4	0	21.4	
	時間的余裕がない	49	4.1	2.0	4.1	2.0	2.0	24.5	
	特にきつきを感じていない	150	6.0	2.0	1.3	1.3	0.7	1.3	

		進路や就職など将来の相談に乗ってほしい	学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい	家庭への経済的な支援をしてほしい	わからない	その他	特にない
小学生	身体的にきつい		15.4	7.7	15.4	0	26.9
	精神的にきつい		5.6	0	22.2	0	22.2
	時間的余裕がない		7.7	3.8	19.2	3.8	19.2
	特にきつさを感じていない		5.4	0.5	6.3	0.5	73.9
中学生	身体的にきつい	4.5	4.5	18.2	13.6	0	18.2
	精神的にきつい	7.1	9.5	4.8	16.7	0	16.7
	時間的余裕がない	4.1	6.1	6.1	22.4	0	22.4
	特にきつさを感じていない	3.3	6.0	0.7	7.3	0	70.0

⑤ 世話に何らかのきつきあり×学校や大人に助けて欲しいことや、必要な支援
 世話に何らかのきつきを感じていると回答した人が、学校や大人に助けてほしいことは、
 小学生では「自由に使える時間が欲しい」「学校の勉強や受験勉強など学習のサポートを
 してほしい」「自分の今の状況について話を聞いてほしい」等の割合が高くなっている。
 中学生では「自由に使える時間が欲しい」「自分の今の状況について話を聞いてほしい」
 「家庭への経済的な支援をしてほしい」等の割合が高くなっている。

図表-44 世話に何らかのきつきあり×学校や大人に助けて欲しいことや、
 必要な支援（複数回答）

		調査数（n）	自分の今の状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談に乗ってほしい	家族の病気や障がい、ケアのこ となどについてわかりやすく説 明してほしい	家族の病気や障がい、ケアのこ となどについてわかりやすく説 明してほしい	自分が行なっているお世話の全 てを代わってくれる人やサービ スが欲しい	自分が行なっているお世話の一 部を代わってくれる人やサービ スが欲しい	自分が行なっているお世話の一 部を代わってくれる人やサービ スが欲しい
小学生	何らかのきつきあり	70	8.6	1.4	0	0	4.3		
中学生	何らかのきつきあり	113	8.0	3.5	5.3	1.8	0.9		

		自由に使える時間が欲しい	進路や就職など将来の相談に乗ってほしい	学校の勉強や受験勉強など学 習のサポートをしてほしい	家庭への経済的な支援をして ほしい	わからない	その他	特にな い
小学生	何らかのきつきあり	28.6		10.0	4.3	18.6	1.4	22.9
中学生	何らかのきつきあり	22.1	5.3	7.1	8.0	18.6	0	19.5

(3) ヤングケアラーの自己認識による生活状況、世話の状況の違い

① ヤングケアラーの自己認識×健康状態

自分がヤングケアラーに「あてはまる」と回答した人は、「あてはまらない」「わからない」と回答した人に比べ、健康状態について小学生では「あまりよくない」と回答した割合が他より高くなっている。中学生では「よい」と回答した割合が他よりやや高くなっている。

図表-45 ヤングケアラーの自己認識×健康状態

(%)

			調査数 (n)	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない
ヤングケアラーかどうか	小学生	あてはまる	30	53.3	16.7	20.0	10.0	0
		あてはまらない	91	58.2	16.5	22.0	3.3	0
		わからない	151	47.7	19.9	27.8	4.0	0.7
	中学生	あてはまる	21	57.1	9.5	23.8	9.5	0
		あてはまらない	70	51.4	15.7	18.6	12.9	1.4
		わからない	104	44.2	19.2	24.0	12.5	0

② ヤングケアラーの自己認識×出席状況

自分がヤングケアラーに「あてはまる」と回答した人は、小学生、中学生いずれも「あてはまらない」「わからない」と回答した人に比べ、「ほとんど欠席しない」の割合が他より高くなっている。

図表-46 ヤングケアラーの自己認識×出席状況

(%)

			調査数 (n)	ほとんど欠席しない	たまに欠席する	よく欠席する
ヤングケアラーかどうか	小学生	あてはまる	30	86.7	13.3	0
		あてはまらない	91	80.2	15.4	4.4
		わからない	151	79.5	15.9	4.6
	中学生	あてはまる	21	81.0	9.5	9.5
		あてはまらない	70	71.4	24.3	4.3
		わからない	104	68.3	27.9	3.8

③ ヤングケアラーの自己認識×遅刻早退

自分がヤングケアラーに「あてはまる」と回答した人は、「あてはまらない」と回答した人に比べ、学校の遅刻・早退は小学生では「たまにする」と回答した割合が他より高くなっている。中学生では「よくする」の割合が高くなっている。

図表-47 ヤングケアラーの自己認識×遅刻早退

(%)

			調査数 (n)	ほとんど しない	たまに する	よく する
ヤング ケアラーか どうか	小学生	あてはまる	30	80.0	16.7	3.3
		あてはまらない	91	83.5	13.2	3.3
		わからない	151	71.5	19.9	8.6
	中学生	あてはまる	21	61.9	23.8	14.3
		あてはまらない	70	71.4	24.3	4.3
		わからない	104	71.2	13.5	15.4

④ ヤングケアラーの自己認識×悩みや困りごと

自分がヤングケアラーに「あてはまる」と回答した人は、「あてはまらない」「わからない」と回答した人に比べ、全ての項目において回答割合が高くなっているが、特に小学生では「友人との関係のこと」、中学生では「塾（通信含む）や習い事ができないこと」「学費や学校生活に必要なお金のこと」の割合が高くなっている。

図表-48 ヤングケアラーの自己認識×悩みや困りごと（複数回答）

(%)

			調査数 (n)	友人との 関係のこと	学業成績 のこと	進路のこと	部活動のこと (社会体育や 習い事のこと)	学費や学校生活 に必要なお金の こと	塾(通信含む) や習い事ができ ないこと
ヤングケ アラーか どうか	小学生	あてはまる	30	30.0	13.3		16.7	16.7	
		あてはまら ない	91	11.0	9.9		6.6	2.2	
		わからない	151	15.2	15.2		7.3	5.3	
	中学生	あてはまる	21	9.5	28.6	33.3	19.0	14.3	52.4
		あてはまら ない	70	21.4	28.6	27.1	17.1	1.4	2.9
		わからない	104	16.3	43.3	41.3	12.5	5.8	8.7

			家庭の経済状況のこと	自分と家族との関係のこと	家族内の人間関係のこと（両親の仲が良くない等）	病気や障がいのある家族のこと	自分のために使える時間が少ないこと	その他	特になし
ヤングケアラーかどうか	小学生	あてはまる					10.0	16.7	46.7
		あてはまらない					8.8	6.6	69.2
		わからない					7.3	8.6	66.2
	中学生	あてはまる	4.8	14.3	14.3	14.3	4.8	42.9	42.9
		あてはまらない	4.3	8.6	4.3	7.1	5.7	42.9	42.9
		わからない	2.9	13.5	4.8	8.7	12.5	37.5	37.5

- ⑤ ヤングケアラーの自己認識×世話による生活への影響（やりたいけれどできていないこと）
 自分がヤングケアラーに「あてはまる」と回答した人は、「あてはまらない」と回答した人に比べ、小学生では「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」「自分の時間が取れない」の割合が高くなっている。中学生では「睡眠が十分にとれない」「自分の時間が取れない」の割合が高くなっている。

図表-49 ヤングケアラーの自己認識×世話による生活への影響（複数回答）
 (%)

			調査数 (n)	学校に行きたくてもいけ ない	どうしても学校を遅刻・ 早退してしまう	宿題をする時間や勉強す る時間が取れない	睡眠が十分にとれない
ヤングケ アラーか どうか	小学生	あてはまる	30	0	0	16.7	3.3
		あてはまらない	91	0	2.2	4.4	6.6
		わからない	151	1.3	3.3	10.6	11.9
	中学生	あてはまる	21	0	4.8	9.5	19.0
		あてはまらない	70	0	0	7.1	7.1
		わからない	104	0	3.8	15.4	14.4

			友人と遊ぶことができな い	部活や習い事ができな い、もしくは辞めなけれ ばならなかった	進路の変更を考えた 変更した	進路の変更を考えざるを 得ない、もしくは進路を 変えた	自分の時間が取れない	その他	特 に な い
ヤングケ アラーか どうか	小学生	あてはまる	6.7	0			23.3	3.3	76.7
		あてはまらない	6.6	0			6.6	1.1	81.3
		わからない	11.9	0.7			13.2	5.3	68.9
	中学生	あてはまる	19.0	0	0	0	14.3	0	61.9
		あてはまらない	11.4	0	1.4	1.4	5.7	2.9	78.6
		わからない	9.6	1.0	1.9	1.9	28.8	1.0	65.4

⑥ ヤングケアラーの自己認識×学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

自分がヤングケアラーに「あてはまる」と回答した人は、「あてはまらない」と回答した人に比べ、全体的に回答割合が高くなっているが、特に小学生では「学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい」「家族のお世話について相談に乗ってほしい」「自分が行なっているお世話の一部を代わってくれるサービスが欲しい」など、「あてはまらない」と回答した人にはみられない項目への回答割合が高くなっている。中学生では「自分の今の状況について話を聞いてほしい」が最も高く、次いで「家庭への経済的な支援をしてほしい」「学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい」等の割合が高くなっている。

図表一50 ヤングケアラーの自己認識×学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援（複数回答）

(%)

			調査数 (n)	自分の今の状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談に乗ってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行なっているお世話を全てを代わってくれる人やサービスが欲しい	自分が行なっているお世話の一部を代わってくれる人やサービスが欲しい
ヤング ケア ラー かど うか	小学生	あてはまる	30	3.3	6.7	6.7	0	6.7
		あてはまらない	91	6.6	0	1.1	0	0
		わからない	151	2.6	0.7	0	0	0.7
	中学生	あてはまる	21	19.0	0	4.8	0	0
		あてはまらない	70	8.6	1.4	2.9	1.4	1.4
		わからない	104	3.8	3.8	1.0	1.9	1.0

			自由に使える時間が欲しい	進路や就職など将来の相談に乗ってほしい	学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい	家庭への経済的な支援をしてほしい	わからない	その他	特になし
ヤング ケアラ ーかど うか	小学生	あてはまる	6.7		10.0	3.3	3.3	0	53.3
		あてはまらない	4.4		5.5	0	4.4	1.1	73.6
		わからない	11.3		5.3	2.0	10.6	0.7	62.9
	中学生	あてはまる	14.3	9.5	14.3	14.3	19.0	0	38.1
		あてはまらない	8.6	4.3	4.3	2.9	5.7	0	68.6
		わからない	9.6	3.8	7.7	1.9	15.4	0	62.5

6 アンケート調査自由意見

アンケート調査において、さまざまな自由意見が寄せられた。

以下に記載する意見は、原文のままではないが、なるべく回答者の表現を用いる形で記載している。

●小学生の意見

意見
初めてヤングケアラーという言葉を知りました。
ヤングケアラーまではいかないけど妹のお世話をたまにしています。でも大変ではありません。
少しでもヤングケアラーについて知れてよかったです
ヤングケアラーについて知らないからよく知りたいです
家庭内でのストレスがある。
こう言う子たちがいるなら少しでも助けてあげたいです
ヤングケアラーについてよくわかりました。大変な子どももいることを知りました。
自分の時間が欲しいです。
ヤングケアラーが大変なことを知っているのでもう少しでも何かできることがあったらしたいです。
ヤングケアラーの子どもがいることは悲しいことです。もしそんな人を見つけたり思ったりしたら、自分にできることを探してみたいです。

●中学生の意見

意見
仕事などで、ヤングケアラーなどの事情がある家に家事を手伝ったり、介護したりするなどの活動を行う。(ベビーシッターのようなもの)
ヤングケアラーのことをできるだけ多くの人に知ってもらおうこと。
色々な人に伝わるようにテレビやSNSなどで広めていく必要がある。
学校の先生などは視野を広げて気づいてあげてほしいです。
そういう子どもたちのためのサービスが増えてくれると嬉しい。ヤングケアラーをお手伝いする人などを派遣する。
私はあまりヤングケアラーについて知らなかったのでもっとヤングケアラーについて知れるような環境を作っていくべきだと思いました。

意 見
助けを求めている人がいたら、話を聞き助けてくれそうな人を紹介することが必要だと思います。
気づきあって、助け合うことが大事だと考えました。
寄り添ってあげる。
学校に来るカウンセラーの先生をもっと増やす。(相談できる環境をたくさん作るため)
ヤングケアラーについてもっと多くの人に知ってもらうことから始めたほうがいいと思う。例えば、学校などの授業に取り扱ってもらったり、ヤングケアラーについて話に来たりすると思う。その他にもっとテレビなどで取り上げたり、広告やポスター、新聞などで日本のいろんな人たちに知ってもらえたらいいと思う。
このような子どもがいたらしっかりと向き合い、相手の意見に耳を傾けることが大事だと思う。
ヤングケアラーがもっと相談しやすい環境をつくったり、ヤングケアラーのケアをしていく必要があると思う。
ヤングケアラーの人を当たり前せず、しっかり公的機関がサポートしてあげるべきだと思う。
より多くの人に知ってもらう機会を作り、ヤングケアラーの子どもたちは、今の生活が当たり前だと思っていると思うのでそうではなく助けを求めている、助けを求めなくてはいけないと思い行動できる環境をつくっていくことが必要だと考える。
地域などで、ヤングケアラーの子どもたちの代わりに介護が必要な人のお世話をする、専門の「課」のようなものをつくったほうがいいと思う。
この事実をテレビやネットなどでもっと広げてたくさんの人に知ってもらうことが必要だと思います。
ヤングケアラーの人は誰もがやりたいことがあると思うのでヘルパーを増やしたりすると思う。バリアフリーな世の中にして、障がいを持っている人でも、暮らしやすい環境にしていけたらと思います。
アンケートを続けていく事や実際にヤングケアラーを体験した方々に話を聞いて学ぶ。
このようなアンケートを実施したり、ヤングケアラーの人がいる家庭に家事を代行してもらえるなどの支援ができたらいいいのではないかと思います。
ポスターや広告などを使ってもっとヤングケアラーについて世の中に発信していくべき。
このような調査をしていただきありがとうございます。私は関係ないではなくもしかしたら、自分もなる可能性があるということ、心にとめておきたいです。

意 見
ヤングケアラーということば自体、初めて聞きました。私たちと同じ年齢の子が家族のために自分のしたいことが出来なかったり、我慢したりするのは、少なくしたほうが良いと思います。気軽に相談出来る環境が必要だと思いました。
学校での講話 アンケート 道徳の時間でヤングケアラーについて学習する。
ヤングケアラーのみならず、誰でも「きついとき、自分が無理をしているかもしれないと思った時、自由な生活ができていると思わないとき等は、頼っていい。頼るのは迷惑でも悪いことでも何でもない。」というのを、皆に心の底から思ってもらうのが大切だと思います。
自分が当事者ではよくわからない部分もありますが、自分から言いにくいことであると思うので定期的なアンケートを行ったらいいと思います。
今はヤングケアラーと言えませんが以前自宅療養をしていた今は亡き祖父をトイレやお願いされたことはしていました。祖父が大好きだったので苦ではありませんでした。それでも思春期、反抗期の私はやり方がわからず強く当たってしまいました。なので、介助の仕方を知りたかったです。
お世話などをしている子どもを早く見つけ出して、その子の親に本当は親がお世話をしないといけないことを指導し、子どもの学習時間を確保してほしいです。
自分がヤングケアラーという自覚をもっている子どもたちがまだまだ少ないと思うので学校などでもっと広めていくことが必要だと思います。
このアンケートはとても適切だと思う。ヤングケアラーの子どもはとても大変で、辛いと思う。なので、このアンケートは増やしていった方がヤングケアラーの子のためになると考えた。
読書感想文でヤングケアラーについて考えたことがあります。私は悩んでいる人が相談しあえる環境を作ることと、悩みをサポートする支援が必要だと思います。
定期的に家庭内の状況をアンケートでとり、ヤングケアラーについて考える時間を学校でとることが必要だと思う。その疑いがある友達などが近くにいたらその人の話も聞いてあげたい。
高齢者や障がい者のお世話をしてくれる施設などが増えていけばいいと思う。
学校などで、習慣的にアンケートなどをとるなどの、活動や習慣的に先生と学校でお話をするなどの活動をしたりしたらいいと思います。それと、周りの友達にすぐに相談に乗ってもらえるような環境「クラス」をつくり、親と仲良くすることが大切だと思いました。
1人で、抱え込んでいる子どもがいる事を知って、理解を広げようと思いました。
家族のお世話などで自分の時間を失っている人がいるなら、自分ができる限りその人に寄り添いたいと思いました。

7 調査結果のまとめと考察

(1) 調査結果のまとめ

① 家族の世話をしているのは、小学生は16.9%、中学生は4.6%

世話をしている家族がいると回答した市立学校の小学6年生は16.9%、中学生は4.6%であった。

② 家族の世話をしていることで学校生活等に影響がみられる

家族の世話をしている場合、健康状態が「あまりよくない」「よくない」、学校を「たまに欠席する」「よく欠席する」、遅刻や早退を「たまにする」「よくする」と回答した者の割合が高くなっており、家族の世話をしていない場合に比べ、健康状態や登校状況にも影響が生じている可能性が考えられる。

また、家族の世話をしている場合、学校生活において「忘れ物が多い」「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」「宿題や課題ができていないことが多い」などの割合が高く、こうした状況が学校生活等でみられる場合はヤングケアラーである等何らかの問題を抱えている可能性を示す兆候であることが考えられる。

また、家族の世話をしている場合には、現在の悩みや困りごととして、小学生では「学業成績のこと」「自分のために使える時間が少ないこと」の割合が高く、中学生では「自分と家族との関係のこと」「病気や障がいのある家族のこと」の割合が高く、学習面や家族に関する悩みや困りごとを抱えていることが窺える。

さらに、家族の世話をしている場合には、悩みや困りごとについて相談に乗ってくれる人や話を聞いてくれる人が「いない」「相談や話はしたくない」と回答した者の割合がやや高く、誰にも相談せずに抱え込んでいる者がいることが窺える。

③ 世話をすることに感じているきつきの状況

世話をすることで「身体的にきつい」「精神的にきつい」「時間的余裕がない」と何らかの負担を感じていても、世話についての悩みを誰かに相談したことが「ない」とした人の割合が高く、その理由としては「誰かに相談するほどの悩みではない」が多い一方で、「相談しても状況が変わることはない」「誰に相談するのがよいかわからない」「相談できる人が身近にいない」等、相談したいのに相談できていない人も一定数みられた。

また、世話をすることで何らかのきつきを感じている者で、学校や大人に助けてほしいこととしては、「自由に使える時間が欲しい」「学校の勉強や受験勉強など学習の

サポートをしてほしい」「家庭への経済的な支援をしてほしい」「自分の今の状況について話を聞いてほしい」等を求める割合が高くみられた。

④ ヤングケアラー自己認識や認知度の状況

お世話をしている人が「いる」場合でも、自身がヤングケアラーに該当すると明確に認識しているのは1割程度である。また、「わからない」も5割程度みられ、自らがヤングケアラーに該当するか否かの判断に迷っている状況が伺える。

自身がヤングケアラーに「あてはまる」とした場合、「あてはまらない」とした場合よりも、小学生では健康状態が「あまりよくない」、中学生では学校を「よく欠席する」、遅刻・欠席を「よくする」の割合が高い傾向にあり、健康状態や学校生活への影響がみられている。

また、ヤングケアラーに「あてはまる」とした場合、「あてはまらない」とした場合よりも、現在の悩みや困りごとについて小学生では「友人とのこと」、中学生では「塾（通信含む）や習い事ができない」「学費や学校生活に必要なお金のこと」の割合が高くなっている。また、世話による制約については「自分の時間が取れない」の割合が高くなっている。

さらに、学校や大人に助けてほしいことについては、「学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい」「自分の今の状況について話を聞いてほしい」などの支援を求める内容が多かった。

ヤングケアラーの認知度については、「聞いたことがあり、内容も知っている」は2割前後であった。「聞いたことがあり、内容も知っている」「聞いたことがあるが、よく知らない」とした者が知ったきっかけとして、約5割が「テレビや新聞、ラジオ」からの情報で、次いで「学校」から情報を得ていることが分かった。

⑤ ヤングケアラーへの理解について

アンケートの自由意見では、本調査で初めてヤングケアラーという言葉を知ったという意見や、これからよく知りたいといった意見がありヤングケアラーに関する普及啓発の必要性を今回の調査により再認識した。

また、ヤングケアラーについて周囲に気付いてほしいという意見やヤングケアラーに寄り添い相談しやすい環境づくりを求める意見もあり、ヤングケアラーがおこなっている世話を代わりにしてくれるサービスの必要性を求めた意見もみられた。

(2) 考 察

ヤングケアラーは、家族の世話をしていない子どもに比べ、健康状態や学校生活に何らかの影響が生じていることが分かった。学校生活での兆候に留意して、周囲の大人が

ら声をかけ、話を聞くなどの働きかけをおこない、周囲がヤングケアラーに早期に気付けるような仕組みづくりが必要である。

また、世話についての相談相手が「学校の先生」「保健室の先生」「スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー」と学校関係者と回答した割合や、ヤングケアラーについて知ったきっかけが「学校」と回答した割合も高いため、今後ヤングケアラーの認知度向上や支援のためには、子ども達にとって身近な学校と一層の連携を図り、支援や普及啓発活動に取り組んでいくことが有効であると考えます。

さらに、ヤングケアラーと思われる子どもが安心して相談できる体制を整え、相談してよかった、また相談しようと思えるよう、子どもの気持ちや意見に寄り添いながら必要な支援策を推進していくことが重要である。